

3-5 生椿の里山自然満喫コース（トキ交流会館より車で生椿入口へ）

トキ野生復帰のシンボルともなっている生椿地区を歩きます。

集落跡ですが、現在も田や畑は耕作されています。

民家を改修した野生復帰支援の活動ハウスも用意されています。

生椿の入り口から集落まではゆるやかな登りの山道です。1ボックスぐらいまでの車が通行できるよう一部には砂利が引いてあり、途中には、現在も耕作されている田んぼや畑（棚田、段々畑）をみることができます。

生椿地区には、トキがかつて飛来した遊水池や水田があり、平成12年からはじまったトキの野生復帰に向けたエサ場作りや地域環境づくりのために行われたビオトープづくりが現在も続けられています。また、環境保全型の田んぼなどもあり、里山の美しい景観も広がっています。

春には、ヤマアカガエルやサンショウウオ、初夏にはモリアオガエルの産卵も見られ、生きものが集まる場所のひとつです。

人家は、旧・高野邸を改修して野生復帰の活動を支援する拠点が1軒あるのみですが、沢から水を引いて簡易水道にするなどかつてのくらしを彷彿とさせます。

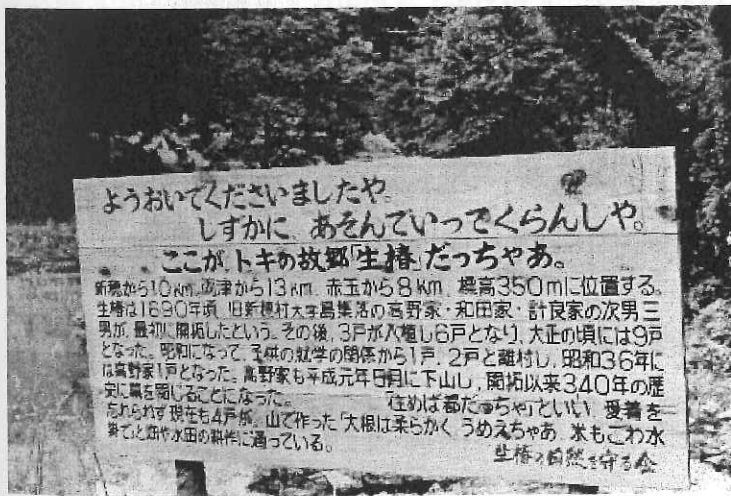
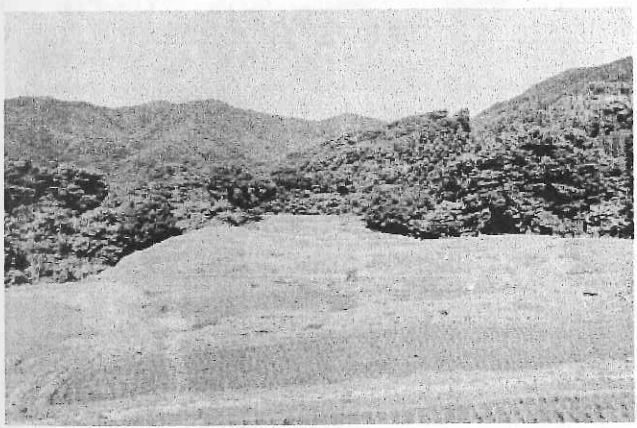
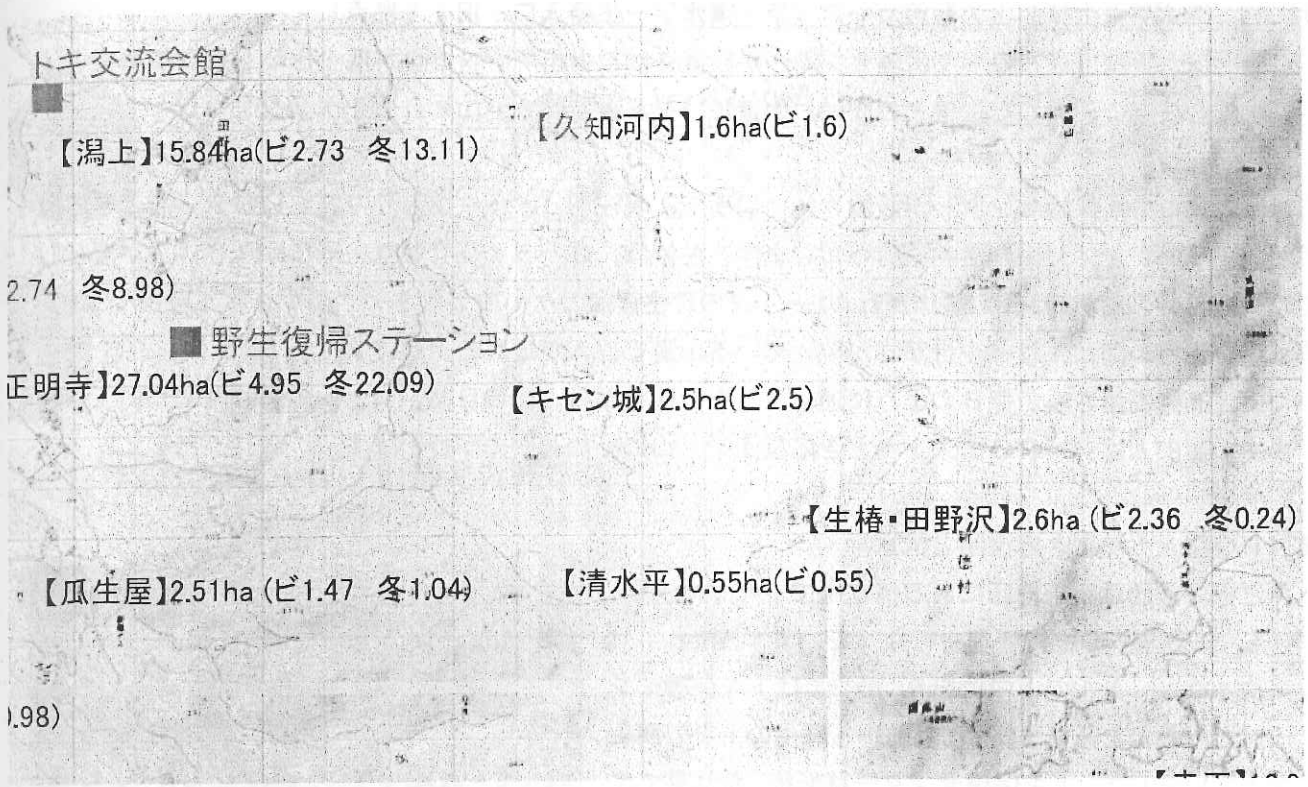
案内人は、トキ博士でもある高野毅さんをお願いします。

■生椿地区と高野高治さん、毅さん親子とトキ
生椿地区は、トキの野生復帰連絡協議会会長の高野毅さんの父・高治さんが最後まで住んでいた地区です。高野高治さんは、長年、野生のトキを保護する活動を続け、保護増殖のための全鳥捕獲後は、佐渡トキ保護センター（旧・清水平）で職員としてトキの世話も行いました。また、自分の田んぼでドジョウを育て、それを保護センターまで毎日のように運ぶなど、トキと人が共生できるよう願い続けた人のひとりです。高野毅さんは、その遺志を継いで、トキと人がともに暮らせる佐渡をつくるための活動を長年に渡って続けています。



必要な道具：ハイキングの服装、歩きやすい靴、タオル、水筒。たも網、プラスチック水槽、虫取り網、虫かご、双眼鏡など。

所要時間：トキ交流会館からの往復時間、往復、休憩、観察、遊び時間を入れて4～5時間。



■ねらい
 山の中の集落跡ですが、現在も使われ、トキにとっても象徴的な場所です。自然豊かで、生きものも多く見られますが、人の手があることで生きられる生きものがあること、人と自然が共生できる場所があることを、自然の中でゆったりと感じ取ります。

ようおいでくださいましたや。
 しすかに あそんでいっでくらんしや。
 ここがトキの故郷「生椿」だっちゃあ。
 新郷から10km、西津から13km、赤玉から8km、標高350mに位置する。
 生椿は1690年頃、田新郷村大字島集落の西野家・和田家・計良家の次男三男が、最初に開拓したという。その後、3戸が入植し6戸となり、大正の頃には9戸となった。昭和になって、子供の就学の関係から1戸、2戸と離村し、昭和36年には西野家1戸となった。西野家も平成元年5月に下山し、開拓以来340年の歴史に幕を閉じることになった。
 住めば暮らせばとてい、愛着をもちながら、現在も4戸が、山で作った大根は柔らかくうめえちあ。米もこわ水巻こと畑や水田の耕作に通っている。
 生椿の自然を守る会